

# トマト



学名 *Lycopersicon esculentum* Mill.  
 和名：トマト  
 英名 Tomato  
 原産地／生育地 中南米  
 植物分類 ナス科トマト属  
 発芽適温 20～30℃  
 生育適温 20～30℃

ある調査によると、母親の最も好きな野菜はトマトとのことで、ビタミンC、カロテン(体内でビタミンAになる)、リコピン(活性酸素を消す作用をもつ)を多く含み、栄養や機能性に優れたトマトを好きになることは健康な生活を送る第一歩になるでしょう。文字どおり「トマトが赤くなると医者が青くなる」といえます。

トマトは強い光を好み、多湿を嫌います。生育適温は20～30℃で、栽培では比較的冷涼で昼夜の温度差が大きいと有利です。トマトはタネまき～定植、定植～収穫開始までそれぞれ2カ月前後かかります。定植が遅いと収穫開始は暑い時期になってしまうのでできるだけ早く定植すべきですが、トマトは霜に弱いので露地への定植は早くても晩霜の恐れがなくなる時期とします。タネまき時期はそのような定植時期になるように合わせます。

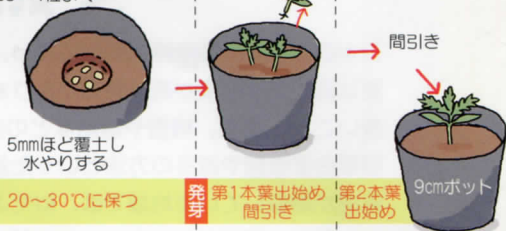
**【品種選び】** トマトの品種は用途から、生食用と調理用 加工用に分けられます。大部分の品種は生食用で、大きさは大玉、中玉(ミディ)、小玉(ミニ)に分けられます。これらを果色で見ると、大玉は主として桃色、中玉 小玉では赤色が主となっていますが、一部、黄色や橙色の品種もあります。調理用 加工用は赤色です。家庭菜園ではスーパーなどで売っていない黄色種や調理用トマトを栽培するのも楽しいのではないのでしょうか。

## 1 タネまきと間引きなど育苗管理

タネまきが低温期になる場合は、ポットまき 箱まきといずれの場合も加温や保温によって発芽適温を確保しましょう。間引きや移植の時、極力根を傷めないようにしましょう。定植適期苗は本葉が7～8枚で 第1花房第1花が咲き始めている苗です。定植適期までの育苗日数は55～65日程度です。

### ●ポットまき(9cmポット)

直径3cm、深さ1cmの穴に3～4粒まく



20～30℃に保つ

発芽

第1本葉出始め  
間引き

第2本葉出始め

9cmポット

### ●箱まき



5mmほど覆土し  
水やりする

1cm間隔に  
タネまき

深さ  
1cmの  
溝

9cmポット  
に移植

## 2 畑の準備と定植

定植予定の2週間以上前に石灰をまいて深く耕し、1週間前には堆肥と元肥(化成肥料、リン酸質肥料)をまいてよく耕します。その後、定植までの間に畝を作り マルチをします。また支柱を合掌式または直立にしてしっかりと立てます。定植当日にマルチに育苗ポットより大きめの植え穴を開け 苗を花房の向きが通路側になるように(後からの花房もすべて同じ向きになります)植えます。

### ●定植予定の2週間以上前

### ●1週間前



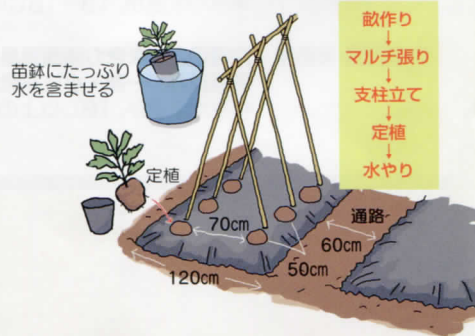
石灰150g

堆肥  
3～4kg

化成肥料150g

リン酸質  
肥料30g

(施用量は1㎡当たり)



苗鉢にたっぷり  
水を含ませる

畝作り

マルチ張り

支柱立て

定植

水やり

定植

70cm

通路

60cm

120cm

50cm

## POINT

**発芽適温20~30℃を確保!**

発芽後は保温温度を徐々に下げるとともにできるだけ日に当て徒長しないようにします。加温 保温装置がない時やタネまきの適期を過ぎてしまった時は、苗を園芸店などで購入してください。



本葉4~5枚の時に鉢上げ

定植適期苗になるまで育苗

## POINT

**元肥の施用量を守る!**

施用量(1㎡あたり)は石灰150g、堆肥3~4kg、化成肥料(N:P:K=8:8:8)150g、熔リンなどのリン酸質肥料30gとします。チッ素が多いと花が咲いても実が止まらなかつたり 果実の先端部が黒くへこむ尻腐れ症がでやすくなります。マルチはシルパーマルチを使うとアブラムシの害をかなり防げます。

## 3 定植後の栽培管理

主枝の誘引は支柱に20~30cm間隔でひもで8の字になるように結びつけます。本葉のつけ根から出るわき芽はすべてかき取ります。収穫目標の花房(3~5段)が咲きだしたら、その上の葉を2~3枚残して主枝を摘み取ります。追肥は第1花房および第3花房の果実がピンポン玉程度の大きさになった時の2回を基本として、後は草勢をみて適宜行います。

### ●誘引



8の字に

### ●摘芯



### ●芽かき



## POINT

**追肥は果実肥大を確認してから!**

わき芽や主枝の摘み取りはハサミを使うとウイルス病を伝染させる恐れがあるので手でを行います。また、晴天日の午前中に行います。追肥の方法は、マルチをまくり 1株当たり化成肥料軽く1握り(約25g)を畝肩部の中心にばらまき 軽く土寄せして マルチを再度かけます。

### ●施肥



1.マルチをまくる

2.1株1握り(25g)をばらまく

3.土寄せ

4.マルチをもどす

## 4 病虫害

トマトの露地栽培では苗が根づいて育ち始めた頃からさまざまな病虫害が発生するので 殺菌剤や殺虫剤を散布して病虫害の防除に努めます。主要な病害は青枯れ病、疫病、灰色かび病、ウイルス病など、主要な害虫はアブラムシ オンシツコナジラミ、アザミウマ類などです。

## POINT

**梅雨期の防除が重要!**

害虫防除のため定植時に殺虫剤を株元にばらまくと効果があります。トマト、ナスなどを連作した畑は連作障害(青枯れ病など)が発生しやすいので 抵抗性台木に接いだ接ぎ木苗を購入し、定植するとよいでしょう。

## 5 着果管理~収穫まで

第1花房の第1花を確実に着果させることが重要ですので 振動授粉と着果ホルモン剤処理を行います。ただし、ホルモン剤処理は3段花房までで終わりにします。大玉トマトでは一つの花房に多く着果した場合 4~5果になるよう摘果します。ミニトマトの場合は摘果しません。赤く熟したものを朝の涼しいうちにハサミで切り取り収穫します。

### ●授粉

支柱を棒でたたく



着果ホルモン剤処理



### ●摘果



切り取る

## POINT

**着果と摘果は確実に行う!**

振動授粉は支柱をたたか、開花した花を軽くはじきます。着果ホルモン剤処理は1花房内で2~3花開花した日に蕾も含めて噴霧します。

## 栽培暦

栽培地	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
寒冷地 冷涼地												
温帯地												
暖地												

●タネまき — 育苗・生育 ◆定植 ■収穫

**サカタのタネ**

失敗しない  
野菜栽培からの引用